

江戸前21の半纏が語る

260年もの間続いた平和が続いた江戸時代は、世界の歴史上でもまれであり、「パクス・トクガワーナ」（徳川の平和）と呼ばれ海外でも高く評価されている。この江戸時代の平和の象徴が江戸前21の半纏に描かれている「赤坂の透かし鰐つば」である。

戦国時代の刀の鰐は、切り合いの際に身を守るため頑丈な鰐であったが、この透かし鰐の装飾は登城の際の武士の身だしなみでありお洒落の小道具であった。その美しい鰐の柄を浴衣のモチーフにしたものだ。見事な職人技に見とれてしまう。これこそ平和の象徴。この染め型は江戸の頃の糸吊り型紙で、糸が切れ染めることができなかったが、同様の江戸好みの浴衣柄を手ぬぐいとして販売して復活させた。平和な時代であればこそ、美しい伝統工芸や芸能文化が花開く。

けっして懐古主義ではない、江戸の感性に学び、光り輝くまちづくり。

江戸前21は未来に向けて江戸を行き来しながら遊び心で伝えてゆきます。

- 古地図とまちあるきで地域の魅力を再発見
- 江戸糸吊り型紙を再生*ものづくりの技伝承
- 東京から日本全国の地域おこしを応援
- 五節句などの歳時記を愉しむくらし伝承
- 陰翳礼賛を体験*竹あかりと和燭燭*有明行灯

*まちあるきのご依頼は5名さま〜、ご希望をメールにてお問合せください。 info@edomae21.org

www.edomae21.org

※江戸前21で検索してください。facebookも！

2015 秋・冬 編

江戸前 edomae 21

お神酒の口で 祝う新年



江戸時代末期頃から、日本各地で作られたお神酒徳利の口に挿す正月飾り。その呼び名は、オミキノクチ・オミキスズ・ミキドメなども様々で、竹・紙・経木など、その土地土地に独自の神酒口がある。静岡県静岡市清水には、静岡みきのくち保存研究会が伝える職人技を極める経木のみきのくち。青森にも竹の神酒口がある。千葉県香取市佐原の酒蔵を訪ねた際に出会ったのは紙の神酒口。そして長野県松本市の無形民俗文化財「松本ミキノクチ製作習俗」は竹細工。松本のお神酒の口（オミキノクチ）とは、神棚に供える御神酒徳利の口に挿して飾る縁起物で、真竹を薄く整形してひご状に細かく裂き、これを組み合わせる様々な文様をつくる緻密な細工物である。毎年12月30日頃に神棚に一对一組でお神酒徳利に挿して飾り、大晦日の夜にはその御神酒徳利で酒を酌み交わす。唯一の編み手となった「矢澤商店」千野恵利子さんは普段縄手通りにある「矢澤鯛焼店」を営んでいる。二足のわらじで無形民俗文化財を守っている。

歳時記を愉しむくらし

長月（ながつき）九月 重陽の節句*祭り*お月見
 「着せ帯」：重陽の節句には前後生糸の真綿を菊にかぶせ、含んだ夜露で身体をぬぐう習慣がありました。

神無月（かんなつき）十月 竹あかり*陰翳礼賛*
 「陰翳礼賛」：谷崎潤一郎の随筆。日本家屋ならではの灯りと四季折々の風情を淡々と綴る。

霜月（しもつき）十一月 新嘗祭*七五三*紅葉狩り
 「新嘗祭」：天皇が年の新穀や新酒を天照大神と天地の神々に供奉感謝する儀式。民衆の農耕儀礼として祭も残る。
 *能登半島の農村で行われるアエノコトや、関東地方の十日夜（とうかんや）など。

師走（しわす）十二月 冬至*正月事始め
 「冬至の七草」：運氣をつける「運盛り」の風習。「ん」のつく南京・蓮根・人参・銀杏・金柑・寒天・饅頭の7つ。小豆や唐辛子の赤い色は災厄除け。

睦月（むつき）一月 入日の節句・平成忠臣蔵
 「入日の節句」：中国の年中行事「入日」の七菜吸い物と日本の若菜摘みの風習から、江戸幕府が公式行事の祝日として。七草粥を食べて一年の豊作と無病息災を願う風習に。*「入日」=人を殺さない日

如月（きさらぎ）二月 地口行灯で初午を愉しむ
 「初午と地口行灯」：「初午」は豊作を祈る農村のお祭りで、江戸では開運の神として民衆の信仰を集め賑わいました。
 *地口とは江戸時代の「駄酒器（ダシヤリ）」を
 行灯に書いた言葉遊びの文化。

竹細工でクリスマスとお正月飾り

会場：新橋ばるーん 205 学習室
 参加費：500円～1,500円 定員 20名様
 *製作物によって変わります。

平成27年 12月6日(日) 13:30～16:30

慶神さまをお迎えする目印となる依り代*門松やお正月飾りは、そもそも各家ごとの想いを込めた手作りでした。千葉佐原では、今でも商家のおかみさんたちは手づくりのお正月飾りを店頭に飾るそうです。その依り代を目印に、ご先祖さまも家に帰ることができるのです。江戸前21では千葉の里山保全活動を進める団体と連携して、青竹を使った日本らしいクリスマスや新年を迎えるお正月飾りを江戸切り絵とともに紹介します。みなさん、今年からは自分だけの手づくりお飾りを竹細工で作りませんか？

みんなが楽しんでお祝いしよう！

平成28年1月30日(土)

参加費：2,000円、謂れ菓子&お土産付き
 定員：先着47名
 *満員になり次第、受付終了とさせていただきます。
 集合場所：新橋ばるーん 101
 アクセス：

- ①JR新橋駅下車烏森口徒歩3分
 - ②地下鉄浅草線・銀座線、ゆりかもめ
新橋駅下車JR乗り換え口徒歩4分
 - ③地下鉄三田線内幸町下車A1出口徒歩10分
- 受付 13:00~ 開演13:30~16:00



歌舞伎・映画・講談・文学など、忠臣蔵の魅力満載！
 昨年語られたゲストのおすすめ映画の魅力や歌舞伎・講談・
 文学・浮世絵など、三百年の時を超え現在に至るまで、
 多くの人に語り継がれた「忠臣蔵」の魅力をそれぞれの視点で
 楽しんでいただけるゲストをお招き致します。
 また江戸前21がテーマとする灯りの風情「有明行灯」や
 「和蠟燭」、「竹灯り」など、衣食住の時代考証も踏
 まえてご紹介致します。

演芸*忠臣蔵まつり

第7回 みんなの忠臣蔵

第2回 稲荷神のお祭り

なんと浅草神社兼務社詣で
 地口行灯を読み解くまち歩き

2月最初の午(うま)の日(今年は二月六日)。
 この日は豊作を祈る農村のお祭りが原型となり稲荷信仰が
 結びついた『初午祭』が全国で行われます。
 江戸では稲荷は開運の神様として、そのほこらも多く、
 初午祭には、地口(じぐち) あんどんが名物になっていました。
 伝法院通りのシンボルである地口行灯を読み解き、
 浅草の新たな魅力を愉しみましょう。



平成28年2月6日(土)

参加費：まち歩き1,000円、
 ミニ地口行灯または江戸手拭い1,000円
 定員：先着20名
 *満員になり次第、受付終了とさせていただきます。
 集合場所：浅草文化観光センター1階
 東京メトロ銀座線 浅草駅(出口2)から徒歩1分
 都営浅草線 浅草駅(A4出口)から徒歩2分
 受付 13:00~13:30まち歩き出発

イベントFAX参加申込み書

FAX:03-3405-1796

事前予約プログラム問合せ先:03-3470-7066 担当:石山

参加申込みについて:参加をご希望の方は、下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお送り下さい。
 尚、E-mailでお申込み頂く場合は、①お名前 ②住所 ③連絡先 ④生年月日をご記入の上、下段のメールアドレスまでお送り下さい。
 *記載いただきました内容は、乗船名簿、保険加入にて必要となります。個人情報保護法に基づき、本イベント以外には使用致しません。
 *申込み締切 開催日の5日前 *満員になり次第、受付終了とさせていただきます。 ※は必須です 送信日:平成 年 月 日

※参加イベント○をつけてください	※氏名(フリガナ)	※住所	※連絡先	生年月日
竹細工でクリスマスとお正月飾り	エドマエ タロウ	〒106-0031 港区〇〇〇〇 3-2-1 104	TEL 03-0000-0000 FAX 03-0000-0000 E-mail edomae@〇〇〇〇	大正 昭和〇〇年〇月〇日 平成
○ 浅草兼務社詣で地口行灯詣を読み解く	江戸前 太郎			
演芸・忠臣蔵まつり				
竹細工でクリスマスとお正月飾り		〒	TEL FAX E-mail	大正 昭和 年 月 日 平成
浅草兼務社詣で地口行灯詣を読み解く				
演芸・忠臣蔵まつり				
竹細工でクリスマスとお正月飾り		〒	TEL FAX E-mail	大正 昭和 年 月 日 平成
浅草兼務社詣で地口行灯詣を読み解く				
演芸・忠臣蔵まつり				

江戸を築いた
 徳川家康没後四百年

今年、元和二年(一六二一)四月十七日、
 駿府で亡くなった徳川家康は、没後四百年
 を迎えた。

豊臣秀吉は、小田原の北条氏政を撲滅し
 た後、家康に江戸詰めを命じた。
 天正十八年(一五九〇)八月一日、家康は、
 北条家が支配していた江戸城の荒れ果てた
 姿に驚いたことであろう。でも、江戸の地
 の利を思う存分發揮するために、全精力を
 注ぐ。

慶長八年(一六〇三)、征夷大將軍に宣下
 された家康は、江戸城の築城を手始めに、
 城を中心として時計回りに改造に着手。内
 堀・外堀の築造・日比谷や日本橋・京橋等
 の埋め立て工事、水運や陸上交通の整備を
 通じて、政治・経済の中心地としての「江戸」
 を築いていく。

また、「武家屋敷地」「寺社地」「町人地」
 を明確に町割りを行なった。更に、徳川家
 の菩提寺として、増上寺を芝に移させた。
 賑わいと活気のある江戸の開発の為に、
 一生を掛けた家康の残した財産を、私達は、
 利用させてもらっている。
 行動力・冷静な判断力・緻密な思考力等
 時代を駆け抜けた家康から、学ぶことは多い。



清田 和美
 郷土史家。
 NPO 法人江戸前 21 理事長
 元港区立生涯学習センター所長。
 NHK 放送博物館で郷土史講座を担当。
 江戸文化や古地図に精通。

